

## 湯川記念財団「望月基金」報告書

	申請者氏名	加治 志織
論文名	“Effect of pressure on Martensitic transition and Curie temperatures $Fe_{72}(Ni_xPt_{1-x})_{28}$ alloys” “Effect of pressure on the tunnel magnetoresistance of Co-Al-O granular films”	
国際会議名	International conference on Magnetism (ICM)	
開催地	Rome Italy	
参加期日	2003/07/28~7/29	
<b>参加目的：</b> $Fe_{72}(Ni_xPt_{1-x})_{28}$ 合金における磁性とマルテンサイト変態への圧力効果、及び Co-Al-O グラニューラー薄膜のトンネル伝導に及ぼす圧力効果についての研究成果を発表するとともに、世界で行われている磁性研究に触れ、広い知見を得ることを目的と致しました。		
<b>会議の状況：</b> 世界各国から多くの研究者の方々が参加されていて、広い会場全体に各国での研究成果があふれていました。テーマごとに分類された各発表会場では熱心な発表と議論を目にすることができました。		
<b>成果概要：</b> 7/28 に”Effect of pressure dependence on Martensitic transition and Curie temperature of $Fe_{72}(Ni_xPt_{1-x})_{28}$ ”、7/29 に”Effect of pressure on the tunnel magnetoresistance of Co-Al-O granular films”の題でポスター発表を行いました。両発表とも多くの方々が興味を持ってくださり、研究内容及び測定装置などを説明させていただきました。全く異なる分野を研究されている方からの質問には今までの自分の固定観念に気づかされ、また同じ物質系を研究されている方からは今後の研究に有意義な提言を頂くことができました。更に他の方々の発表では、同じ分野でも異なる視点からのアプローチを行っており、自分の実験結果との共通点・相違点を見ることにより新しい視点からもう一度自分の研究内容を考え直すよい機会を得ました。加えて多くの研究者の発表技術や研究姿勢などに触れる事により、自分の語学、及び学問の至らなさを痛感し、今後その両者を高める必要性を感じました。		